

報道関係者各位

転職時期、7割が「1年以内に転職したい」

人材獲得競争での給与増の有効性も示唆

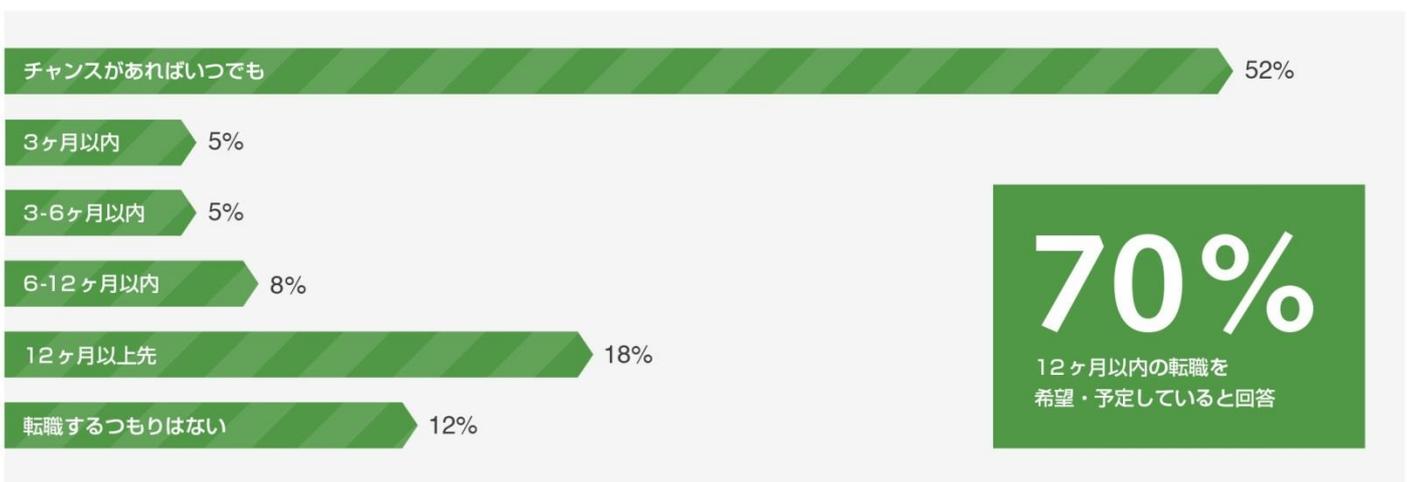
グローバル人材紹介会社ロバート・ウォルターズが調査結果を発表

英語を使う求人を紹介する人材紹介会社のロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：デイビッド・スワン）は8月31日、日本語・英語の2言語と専門分野でのスキル・経験を用いて働くグローバル人材を対象に、転職の価値観を調査したアンケート結果を発表しました。

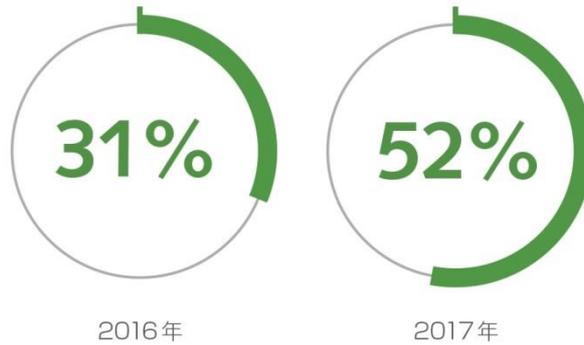
転職時期、7割が「1年以内に転職したい」

外資系企業、日系グローバル企業の第一線で活躍する1,432人のバイリンガル会社員に「次の転職時期」を聞いた結果、70%が12ヶ月以内の転職を希望・予定していると回答しました。「チャンスがあればいつでも転職したい」との回答は前回調査（2016年10月）の31%を大きく上回り52%となりました。当社がこれまでに実施した数々の調査で当社登録者のバイリンガル会社員の多くが、仕事を通じて成長を続けながら自分の意思でキャリアを構築したいという高い向上心を持っていることが分かっています。今回の調査結果は売り手市場を「挑戦するチャンス」と捉えて自らの力を試し、向上を図りたいという積極的な姿勢を映しているのかも知れません。さらにこの結果を現職に移る際に給与が「10%以下・変わっていない・下がった」回答者に絞ってみると、全体結果を上回る56%の人が「チャンスがあればいつでも転職したい」と答えています。

次の転職時期

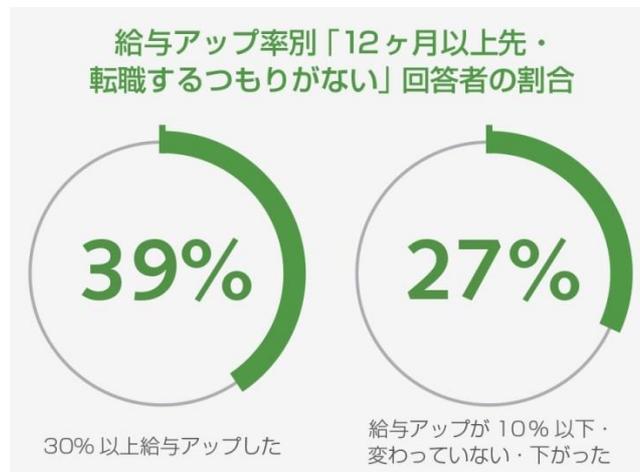


チャンスがあればいつでも転職したい



人材獲得競争での給与増の有効性を示唆

現職に移る際に給与が「30%以上上がった」回答者の39%が「12ヶ月以上先・転職するつもりがない」と答えた一方で、「10%以下・変わっていない・下がった」回答者では「12ヶ月以上先・転職するつもりがない」は27%と大きく下回っています。人手不足が企業成長の足かせになり兼ねない昨今では、優秀な人材を巡る獲得競争で優位に立つために他社より高い給与額を提示する企業が増えていますが、この調査結果がその有効性を示しています。



(実施期間：2017年5月1日～2017年5月31日、対象：当社登録者 n=1,432人)

ロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社について (<https://www.robertwalters.co.jp/>)

ロバート・ウォルターズは1985年に英国・ロンドンで設立され、世界28カ国の主要都市に拠点を持つ、スペシャリストのためのグローバル人材紹介会社です。ロバート・ウォルターズ・ジャパンは同社の日本オフィスで、バイリンガル人材に特化しています。2000年に東京オフィスを、2007年には大阪オフィスを開設。グローバル企業、日系企業ともに世界有数のトップ企業から新規参入企業、中小企業に至るまで、多岐に渡る業種・職種、正社員および派遣・契約社員と幅広い採用ニーズに応えた人材紹介をおこなっています。ラグビー日本代表のオフィシャルスポンサー、各種NPOの支援など、日本社会への貢献にも積極的に取り組んでいます。

<本件に関するお問い合わせ先>

ロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社 広報担当
TEL：03-4570-1500 e-mail：info@robertwalters.co.jp